

ジェンダー研究センター彙報<平成13年度>

(平成13年4月1日～平成14年3月31日)

職名は発令時による

平成13(2001)年度 研究プロジェクト概要

年月日	テーマ	報告者、評者等	
夜間セミナー	「現代ヨーロッパにおける移動とジェンダー」 “Migration and Mobility in Contemporary Europe: A Gender Perspective”		
	平成13年5月16日	セミナー「移動研究とジェンダー研究をつなぐ——両者の接点を求めて」 “Bringing together Migration and Gender”	ミリヤナ・モロクワシチ=ミュラー (Mirjana Morokvasic-Müller) (フランス国立科学研究センター教授兼バリ第10大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター外国人客員教授) コメンテーター：石塚道子 (お茶の水女子大学文教育学部教授)
	平成13年5月23日	セミナー「ゲスト・ワーカーから超国境的移動者へ——1989年を分岐点として」 “From Guest Workers to Transnational Migrants”	ミリヤナ・モロクワシチ=ミュラー (Mirjana Morokvasic-Müller) (フランス国立科学研究センター教授兼バリ第10大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター外国人客員教授) コメンテーター：小井土彰宏 (一橋大学教授)
	平成13年6月6日	セミナー「ヨーロッパ経済への『他者化された』女性の編入——衣服産業、家事代行業、性産業」 “‘Other’ Women’s Incorporation in the European Economy”	ミリヤナ・モロクワシチ=ミュラー (Mirjana Morokvasic-Müller) (フランス国立科学研究センター教授兼バリ第10大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター外国人客員教授) コメンテーター：足立真理子 (専修大学非常勤講師)
	平成13年6月13日	セミナー「女性移動者の抵抗戦略——サン・パビエ、自営業、通勤としての移動」 “What are the Strategies of Resistance”	ミリヤナ・モロクワシチ=ミュラー (Mirjana Morokvasic-Müller) (フランス国立科学研究センター教授兼バリ第10大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター外国人客員教授) コメンテーター：稲葉奈々子 (茨城大学専任講師)
	平成13年6月20日	セミナー「強制移動と移り変わるアイデンティティ——ユーゴスラヴィアのバイナショナル・カップルをめぐって」 “Forced Migrations and Shifting Identities”	ミリヤナ・モロクワシチ=ミュラー (Mirjana Morokvasic-Müller) (フランス国立科学研究センター教授兼バリ第10大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター外国人客員教授) コメンテーター：竹中千春 (明治学院大学国際学部教授)
		「アジア太平洋におけるジェンダーとグローバル化」“Gender and Globalization in Asia and the Pacific”	
	平成13年11月7日	セミナー「ジェンダーとグローバル化を考える」 “Thinking about Gender and Globalisation”	ヴェラ・マッキー (Vera Mackie) (カーティン工科大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター外国人客員教授) コメンテーター：伊豫谷登志翁 (一橋大学教授)
	平成13年11月14日	セミナー「グローバル化と身体」 “Globalisation and the Body”	ヴェラ・マッキー (Vera Mackie) (カーティン工科大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター外国人客員教授) コメンテーター：鄭暎恵 (大妻女子大学助教授)
	平成13年11月28日	セミナー「グローバル化と表象」 “Globalisation and the Representation”	ヴェラ・マッキー (Vera Mackie) (カーティン工科大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター外国人客員教授) コメンテーター：千野香織 (学習院大学教授)
平成13年12月5日	セミナー「グローバル化とセクシュアル・アイデンティティ」 “Globalisation and Sexual Identities”	ヴェラ・マッキー (Vera Mackie) (カーティン工科大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター外国人客員教授) コメンテーター：河口和也 (実践女子大学非常勤講師)	
平成13年12月12日	セミナー「グローバル化とトランスナショナル・フェミニズム」 “Globalisation and Transnational Feminism”	ヴェラ・マッキー (Vera Mackie) (カーティン工科大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター外国人客員教授) コメンテーター：伊藤るり (お茶の水女子大学ジェンダー研究センター教授)	

ジェンダー研究センター彙報<平成13年度>

講演会	平成13年9月22日	公開講演会 「ポスト・コミュニズム時代のヨーロッパにおける人の移動とジェンダー」 “Post-Communist Migrations in Europe and Gender”	ミリヤナ・モロクワシチ=ミュラー (Mirjana Morokvasic-Müller) (フランス国立科学研究センター上級研究員兼パリ第10大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター外国人客員教授) デイスカッサント：姫岡とし子 (立命館大学教授)、伊藤るり (お茶の水女子大学ジェンダー研究センター教授)
シンポジウム	平成14年3月2日	公開シンポジウム「トランスナショナル・フェミニズムの可能性」	基調報告：ヴェラ・マッキー (Vera Mackie) (カーティン工科大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター外国人客員教授) 報告：土佐弘之 (東北大学助教授)、金富子 (お茶の水女子大学人間文化研究科博士課程) デイスカッサント：竹村和子 (お茶の水女子大学人間文化研究科助教授)、司会：館かおる (お茶の水女子大学ジェンダー研究センター教授)
公開セミナー	平成13年10月3日	セミナー「変容するアジアの家族」“Reform of the Family in Asia” (「アジアから考える研究会」との共催) 「インドにおける家族の変容」 “Gender Justice or Family Values?: The Limits of Family Reform in Post-Colonial India” 「日本における家族の変容」	パトリスシア・ウベロイ (Patricia Uberoi) (デリー大学経済開発研究所教授) ブリッジ・タンカ (Brij Tankha) (デリー大学中国・日本研究学部教授) コメンテーター：三浦徹 (お茶の水女子大学文教育学部教授) 司会：宮尾正樹 (お茶の水女子大学人間文化研究科助教授) 通訳：竹中千春 (明治学院大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター国内客員教授)
「国際移民とジェンダー再編」研究会	平成13年7月21日		伊藤るり (お茶の水女子大学ジェンダー研究センター教授) による報告
	平成13年8月18日		稲葉奈々子 (茨城大学専任講師、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員) による報告
	平成13年10月13日	「『自営業』とは何か——実務的観点からの報告	福田知子 (都立大学大学院博士課程)、小ヶ谷千穂 (一橋大学大学院博士課程)
	平成13年11月1日	公開講演会 (「グローバル化とジェンダー規範」研究会と共催) 「構造調整とグローバル化のものとジェンダー・ダイナミクス——南部アフリカの状況から」“Gender Dynamics in the Context of Structural Adjustment & Globalization: The Case of Southern African Region”	マージョリー・ムビリーニ (Prof. Marjorie Mbilinyi) (タンザニア、ダル・エス・サラーム大学教授) 通訳：伊藤るり (お茶の水女子大学ジェンダー研究センター教授)
	平成13年11月10日	「在日フィリピン人女性の社会的ネットワーク」の報告	鈴木伸枝 (ハワイ大学大学院博士課程、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員)
	平成13年12月8日・9日	調査票設計検討のための合宿	
ジェンダーと健康 (GHS) 研究会	平成14年2月9日		小ヶ谷千穂 (一橋大学大学院博士課程)、稲葉奈々子 (茨城大学専任講師、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員) による報告
	平成13年4月14日	「出生前診断に関する調査について」	菅野祺子 (立教大学大学院博士課程)
	平成13年5月26日	「保健医療領域におけるセクシュアリティ概念についての論点」	朝倉京子 (厚生労働省)
	平成13年6月30日	「セクシュアリティに対する態度——尺度の開発と構成概念の検討」	朝倉京子 (厚生労働省)
	平成13年7月20日	「美容外科手術とジェンダー」	川添裕子 (国際医療福祉大学非常勤講師)
平成13年9月1日	「情報社会の認識論」	根村直美 (お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究員)	
	「リプロダクティブ・ライツと人口政策へのロビー活動——フィリピンを事例として」	兵藤智佳 (早稲田大学アジア太平洋研究センター助手)	

ジェンダーと健康 (GHS) 研究会	平成13年11月3日	「『相互依存関係』と『アバウトさ』を生きる——糖尿病患者の食事実践の事例から」	浮ヶ谷幸代 (国際医療福祉大学非常勤講師)
		「トランスジェンダーと社会——当事者支援におけるタテマエとホンネ」	東優子 (ノートルダム清心女子大学助教授)
	平成13年12月23日	「バラグアイ農村女性の性と生殖に関する意識と変化——農村女性の家族計画の『語り』と『実践』を手掛かりに (1994年-2001年)」	藤掛洋子 (お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程)
		「フードファディズム言説とフードファディズム批判言説」	柄本三代子 (法政大学非常勤講師)
	平成14年1月26日	「身体をめぐる政策と個人——過去の母子政策の事例から」	中山まき子 (鳴門教育大学助教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員)
		「生殖の権利と『新優生学』」	松原洋子 (早稲田大学非常勤講師)
「フェミニズムと現代思想／映像表現とジェンダー」研究会	平成13年5月25日	キンバリー・ピアース監督『ボーイズ・ドント・クライ』ビデオ鑑賞 「二つの神話——性別二元制と性同一性」の報告	三橋順子 (女装家・トランスジェンダー社会史研究会)
	平成13年7月13日	ジェームズ・キャメロン監督『エイリアン2』ビデオ鑑賞 「エイリアンとしての女性」の報告	小谷真理 (SF&ファンタジ評論家)
	平成13年10月31日	デヴィット・クローネンバーグ監督『M. バタフライ』ビデオ鑑賞 「ジェンダーとエスニシティの越境」の報告	小林富久子 (早稲田大学教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター客員教授)
	平成13年11月16日	『女性国際戦犯法廷全記録』ビデオ鑑賞 「元『慰安婦』の語り」と記録化の現場から」の報告	瀬山紀子 (ビデオ塾・お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程)
		NHK、ETV2001『シリーズ 戦争をどう裁くか』より第三話『いまも続く戦時性暴力』ビデオ鑑賞 「性暴力サバイバーの声と映像表現」の報告	坂上香 (映像ジャーナリスト)
平成14年3月13日	ダニエル・マン監督『八月十五夜の茶屋』ビデオ鑑賞	村上由見子 (作家) による報告	
高等女学校研究会	平成13年5月20日 ／6月22日／7月22日 ／8月2日／9月14日・15日 ／10月5日／平成14年2月18日	単行本『植民地下朝鮮の高等女学校 (仮)』刊行のための研究会	

1. 人事関係

1) 運営委員会名簿 (括弧内は在任期間)

ジェンダー研究 センター長(併)	波平恵美子 (平成12年4月1日～ 平成14年3月31日)
文教育学部教授	天野 正子 (同上)
文教育学部教授	箕浦 康子 (同上)
理学部教授	前田ミチエ (同上)
理学部教授	今野美智子 (同上)
生活科学部教授	駒城 素子 (同上)
生活科学部教授	戒能 民江 (同上)
人間文化研究科助教授	米田 俊彦 (同上)
人間文化研究科助教授	竹村 和子 (同上)
ジェンダー研究 センター教授	伊藤 るり (平成12年4月1日～)
ジェンダー研究 センター教授	館 かおる (平成8年5月11日～)

2) スタッフ名簿 (括弧内は在任期間)

センター長 (併)	波平恵美子 (平成12年4月1日～)
専任教授	伊藤 るり (平成12年4月1日～)
	館 かおる (平成8年5月11日～)
外国人客員教授	Mirjana Morokvasic-Müller (ミリヤナ・モロクワシチ=ミュラー) (フランス国立科学研究センター政治システム 分析研究所教授兼パリ第10大学教授) (平成13年4月4日～ 平成13年9月28日)
	Vera C. Mackie (ヴェラ・マッキー) (オーストラリア、カーティン工科大学国際文化学部教授) (平成13年10月3日～ 平成14年3月8日)
客員教授 (国内)	川嶋 瑤子 (スタンフォード大学「女性とジェンダー研究所」研究員) (平成13年4月1日～ 平成14年3月31日)
	小林富久子 (早稲田大学教授) (同上)
	竹中 千春 (明治学院大学教授) (同上)
研究員 (非常勤講師)	根村 直美 (平成13年4月1日～ 平成14年3月31日)

研究協力員

足立真理子 (専修大学非常勤講師) (平成13年4月16日～ 平成14年3月31日)
新井 淑子 (埼玉大学教授) (同上)
天野 正子 (本学人間文化研究科教授) (同上)
石塚 道子 (本学文教育学部教授) (同上)
稲葉奈々子 (茨城大学人文学部専任講師) (同上)
大井 玄 (国立環境研究所参与) (同上)
大海 篤子 (法政大学非常勤講師) (同上)
大沢 真理 (東京大学社会科学研究所教授) (同上)
太田 孝子 (岐阜大学留学生センター助教授) (同上)
戒能 民江 (本学生活科学部教授) (同上)
木村くに子 (東京農業大学非常勤講師) (同上)
熊谷 圭知 (本学文教育学部助教授) (同上)
戈木クレイグヒル滋子 (東京都立保健科学大学助教授) (同上)
周 一川 (慶応大学・日本大学非常勤講師) (同上)
鈴木 伸枝 (ハワイ大学大学院 博士課程 Ph.D.取得資格) (同上)
竹村 和子 (本学人間文化研究科助教授) (同上)
田澤 薫 (尚絅女学院短期大学助教授) (同上)
田中由美子 (JICA 国際協力総合研修所 国際協力専門員) (同上)
柘植あづみ (明治学院大学助教授) (同上)

外山 紀子 (津田塾大学専任講師) (同上)
 中山まき子 (鳴門教育大学助教授) (同上)
 福田須美子 (相模女子大学教授) (同上)
 堀 千鶴子 (城西国際大学専任講師) (同上)
 前田 侯子 (本学名誉教授) (同上)
 松浦 いね (元たばこ総合研究センター研究員) (同上)
 松田 久子 (元理化学研究所非常勤職員) (同上)
 村松 安子 (東京女子大学文理学部教授) (同上)
 山崎美和恵 (埼玉大学名誉教授) (同上)
 山本 禮子 (和洋女子大学名誉教授) (同上)
 山西 貞 (本学名誉教授) (同上)
 Pataya Ruenkaew (元University of Bielefeld講師) (同上)

研究機関研究員

長妻由里子 (平成13年4月1日～平成14年3月31日)
 黒川 知美 (同上)
 森本 恭代 (同上)

研究支援推進員

小山 直子 (平成13年4月1日～平成14年3月31日)

教務補佐員

造力 由美 (平成13年4月1日～平成14年3月31日)
 竹内 ゆり (同上)
 萩野 正恵 (平成13年4月1日～5月31日)
 花岡ナホミ (平成13年6月1日～平成14年3月31日)

(重点 中村 若生 平成13年6月18日～9月30日、平成14年1月1日～3月31日)

2. 会議関係

<運営委員会の開催>

平成13年4月16日/5月28日/7月2日/9月12日/10月15日/11月19日/12月17日/平成14年2月18日/3月11日

3. 研究調査活動

1) センター共同研究プロジェクト

「国際移動とジェンダー」に関する研究

〔研究担当〕

伊藤 るり (ジェンダー研究センター教授)
 ミリヤナ・モロクワシチ=ミュラー (ジェンダー研究センター外国人客員教授、フランス国立科学研究センター教授兼パリ第10大学教授)
 足立真理子 (ジェンダー研究センター研究協力員、専修大学非常勤講師)
 稲葉奈々子 (ジェンダー研究センター研究協力員、茨城大学専任講師)
 鈴木 伸枝 (ジェンダー研究センター研究協力員、ハワイ大学大学院博士課程 Ph.D. 取得資格)
 篠崎 香子 (本学人間文化研究科博士後期課程)
 徐 阿貴 (本学人間文化研究科博士後期課程)
 柳 蓮淑 (本学人間文化研究科博士後期課程)
 張 草燕 (本学人間文化研究科博士後期課程)
 プレンダ・テネグラ (本学人間文化研究科博士前期課程)
 Pataya Ruenkaew (ジェンダー研究センター研究協力員、元 University of Bielefeld 講師)

〔研究内容〕

- ①(1)国際移動/移民研究におけるジェンダー分析の理論的枠組みに関する検討、(2)女性移住者のエンパワーメントの可能性に関する、またこれに資する調査研究
- ②「国際移民とジェンダー再編」研究会を開催した。
 7月21日(土) 伊藤るりによる報告
 8月18日(土) 稲葉奈々子による報告
 10月13日(土) 福田知子(都立大学大学院博士課程)、小ヶ谷千穂(一橋大学大学院博士課程)による「『自営業』とは何か——実務的観点から」の報告
 11月10日(土) 鈴木伸枝による「在日フィリピン人女性の社会的ネットワーク」の報告

平成14年

2月9日(土) 小ヶ谷千穂、稲葉奈々子による報告

- ③11月1日(木) マージョリー・ムビリーニ (Marjorie Mbilinyi) (タンザニア、ダル・エス・サラーム大学教授) による公開講演会「構造調整とグローバル化のよとのジェンダー・ダイナミクス——南部アフリカの状況から」“Gender Dynamics in the Context of Structural Adjustment and Globalization: The Case of Southern African Region” を開催した。於：附属図書館第二会議室 (17:00~19:00)。参加者30名。
- ④12月8日(土)・9日(日) に調査票設計検討のための合宿を行なった。於：国立女性教育会館
- ⑤Pataya Ruenkaew が “Female Thai Migrants in Japan” を『ジェンダー研究』第5号に執筆した。

「ジェンダーと健康」に関する研究

〔研究担当〕

ジェンダーと健康 (GHS) 研究会メンバー

根村 直美 (ジェンダー研究センター研究員)

大井 玄 (ジェンダー研究センター研究協力員・国立環境研究所参与)

戈木クレイグヒル滋子 (ジェンダー研究センター研究協力員・東京都立保健科学大学助教授)

柘植あづみ (ジェンダー研究センター研究協力員・明治学院大学助教授)

田澤 薫 (ジェンダー研究センター研究協力員・尚絅女学院短期大学助教授)

中山まき子 (ジェンダー研究センター研究協力員・鳴門教育大学助教授)

松原 洋子 (早稲田大学非常勤講師・三菱化学生命科学研究所特別研究員)

芦野由利子 (日本家族計画連盟)

浮ヶ谷幸代 (国際医療福祉大学非常勤講師)

高橋 都 (東京大学大学院医学系研究科助手)

原 ひろ子 (放送大学教授)

東 優子 (ノートルダム清心女子大学助教授)

兵藤 智佳 (早稲田大学アジア太平洋研究センター助手)

宮原 忍 (母子愛育会日本家庭子ども総合研究所)

〔研究内容〕

- ①(1)「健康に対する権利」および「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の限界に関する研究、(2)「健康」あるい

は「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」に関する政策論、あるいは政策に関する事例研究、(3)性暴力に関する研究、(4)男性の「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の研究。

- ②「ジェンダーと健康 (GHS) 研究会」を開催した。於：附属図書館第二会議室 (13:00~17:00)。

4月14日(土) 菅野撰子 (立教大学大学院博士課程) 「出生前診断に関する調査について」

5月26日(土) 朝倉京子 (厚生労働省) 「保健医療領域におけるセクシュアリティ概念についての論点」

6月30日(土) 朝倉京子 (厚生労働省) 「セクシュアリティに対する態度——尺度の開発と構成概念の検討」

7月20日(金) 川添裕子 (国際医療福祉大学非常勤講師) 「美容外科手術とジェンダー」

9月1日(土) 根村直美 (ジェンダー研究センター研究員) 「情報社会の認識論」、兵藤智佳 (早稲田大学アジア太平洋研究センター助手) 「リプロダクティブ・ライツと人口政策へのロビー活動——フィリピンを事例として」

11月3日(土) 浮ヶ谷幸代 (国際医療福祉大学非常勤講師) 「『相互依存関係』と『アバウトさ』を生きる——糖尿病患者の食実践の事例から」、東優子 (ノートルダム清心女子大学助教授) 「トランスジェンダーと社会——当事者支援におけるタテマエとホンネ」

12月23日(日) 藤掛洋子 (本学大学院博士課程) 「パラグアイ農村女性の性と生殖に関する意識と変化——農村女性の家族計画の『語り』と『実践』を手掛かりに (1994年-2001年)」、柄本三代子 (法政大学非常勤講師) 「フードファディズム言説とフードファディズム批判言説」

平成14年

1月26日(土) 中山まき子 (ジェンダー研究センター研究協力員・鳴門教育大学助教授) 「身体をめぐる政策と個人——過去の母子政策の事例から」、松原洋子 (早稲田大学非常勤講師) 「生殖の権利と『新優生学』」

- ③『ジェンダーで読む健康/セクシュアリティ——健康とジェンダーII』(明石書店)の刊行(2003年2月)に向け、執筆会議を開催した。

「映像表現とジェンダー」に関する研究

〔研究担当〕

小林富久子 (ジェンダー研究センター客員教授・早稲田大学

教授)

館 かおる (ジェンダー研究センター教授)
磯山久美子 (本学人間文化研究科博士課程)
フェミニズムと現代思想「映像表現とジェンダー」研究会メンバー

〔研究内容〕

- ①フェミニズムと現代思想「映像表現とジェンダー」研究会を開催。於：附属図書館第二会議室 (13:00~17:00)
5月25日 (金) キンバリー・ピアース監督『ボーイズ・ドント・クライ』ビデオ鑑賞。三橋順子 (女装家・トランスジェンダー社会史研究会) による「二つの神話——性別二元制と性同一性」の報告。(この回のみ、於：理学部3号館会議室)
7月13日 (金) ジェームズ・キャメロン監督『エイリアン2』ビデオ鑑賞。小谷真理 (SF&ファンタジイ評論家による「エイリアンとしての女性」の報告。
10月31日 (水) デヴィット・クローネンバーグ監督『M. バタフライ』ビデオ鑑賞。小林富久子 (早稲田大学教授) による「ジェンダーとエスニシティの越境」の報告。
11月16日 (金) 『女性国際戦犯法廷全記録』ビデオ鑑賞。瀬山紀子 (ビデオ塾・本学博士課程) による「元『慰安婦』の語りと記録化の現場から」の報告。NHK、ETV2001『シリーズ 戦争をどう裁くか』より第三話『いまも続く戦時性暴力』ビデオ鑑賞。坂上香 (映像ジャーナリスト) による「性暴力サバイバーの声と映像表現」の報告。(この回のみ、12:30開始)

平成14年

- 3月13日 (水) ダニエル・マン監督『八月十五夜の茶屋』ビデオ鑑賞。村上由見子 (作家) による報告。
②お茶の水女子大学ジェンダー研究センター／富山太佳夫・小林富久子・館かおる編『フェミニズムと知』世織書房の刊行に向け、執筆・編集作業を行なった。(成果刊行)

「植民地下朝鮮における女子中等教育」の研究

〔研究担当〕

「高等女学校研究会」メンバー

山本 禮子 (ジェンダー研究センター研究協力員・和洋女子大学教授)
新井 淑子 (ジェンダー研究センター研究協力員・埼玉大学

教授)

福田須美子 (ジェンダー研究センター研究協力員・相模女子大学教授)
太田 孝子 (ジェンダー研究センター研究協力員・岐阜大学助教授)
館 かおる (ジェンダー研究センター教授)

〔研究内容〕

- ①高等女学校卒業生へのアンケート調査、インタビュー調査を継続
②学校史等の資料の収集
③単行本『植民地下朝鮮の高等女学校 (仮)』刊行のため高等女学校研究会を開催した。
平成13年5月20日 (日)、6月22日 (金)、7月22日 (日)、8月2日 (木)、9月14日 (金)・15日 (土)、10月5日 (金)、平成14年2月18日 (月)

「大学教育とジェンダーⅣ」に関する研究

〔研究担当〕

川嶋 瑤子 (ジェンダー研究センター客員教授)
天野 正子 (本学人間文化研究科教授)
館 かおる (ジェンダー研究センター教授)
外山 紀子 (ジェンダー研究センター研究協力員・津田塾大学専任講師)
黒川 知美 (ジェンダー研究センター研究機関研究員)

〔研究内容〕

- ①アメリカ合衆国の大学統計との比較検討
②川嶋瑤子、館かおる編『大学教育とジェンダー』単行本刊行に向け、大学教育とジェンダーに関する統計的、総合的な研究を行なった。

「女性と自然科学」に関する研究

〔研究担当〕

山西 貞 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学名誉教授)
松田 久子 (ジェンダー研究センター研究協力員・元理化学研究所非常勤職員)
山崎美和恵 (ジェンダー研究センター研究協力員・埼玉大学名誉教授)
前田 侯子 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学名誉教授)
館 かおる (ジェンダー研究センター教授)

小山 直子 (ジェンダー研究センター研究支援推進員)
黒川 知美 (ジェンダー研究センター研究機関研究員)

〔研究内容〕

- ①保井コノ資料・加藤セチ資料・辻村みちよ資料の整理及び研究。
- ②湯浅年子資料の内、物理学研究以外の業績の整理及び研究。
- ③「少女のための科学者への道」実行委員会発行『科学する心——日本の女性科学者たち』に山崎美和恵が「保井コノ」「湯浅年子」の頁を、山西貞が「辻村みちよ」の頁を執筆した。(英語版: *Blazing a Path: Japanese Women's Contributions to Modern Science* にも翻訳され掲載された)

「大学におけるセクシュアルハラスメント」に関する研究

〔研究担当〕

戒能 民江 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学生活科学部教授)
吉川真美子 (本学人間文化研究科博士後期課程)

〔研究内容〕

- ①大学においてセクハラ被害を受けた構成員の意思を尊重して公正に問題解決するための機構のあり方について、法学的観点から検討した。
- ②「キャンパス・セクシュアルハラスメント研究会」を開催した。
- ③大学におけるセクシュアルハラスメント事例および大学の対応機構の収集を行なった。
- ④裁判に訴えてた女性の学生・院生・教員に対するインタビュー調査を行なった。
- ⑤大学におけるセクシュアルハラスメント対応の法的性格について、理論化を図った。

「ジェンダー研究文献のカテゴリー化」に関する研究

〔研究担当〕

館 かのる (ジェンダー研究センター教授)
小山 直子 (ジェンダー研究センター研究支援推進員)

〔研究内容〕

増永良文 (本学理学部教授) の「重点研究経費」におけるデータベース作成研究と連携。国内外のジェンダー研究文献のデータベースを検討対象とし、ジェンダー研究文献のカテゴリー化に関する研究を行なうとともに、データベース作成

のためのシステム研究を行なった。

2) 外国人客員教授関連プロジェクト

「現代ヨーロッパにおける移動とジェンダー」の研究

〔研究担当〕

ミリヤナ・モロクワシチ=ミュラー (ジェンダー研究センター外国人客員教授・フランス国立科学研究センター教授兼パリ第10大学教授)
伊藤 るり (ジェンダー研究センター教授)
石塚 道子 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学文教育学部教授)
竹中 千春 (ジェンダー研究センター客員教授・明治学院大学教授)
篠崎 香子 (本学人間文化研究科博士後期課程)
長妻由里子 (ジェンダー研究センター研究機関研究員)

〔研究内容〕

- ①ミリヤナ・モロクワシチ教授が平成13年5月16・23日、6月6・13・20日の全5回「現代ヨーロッパにおける移動とジェンダー」の夜間セミナーを行なった。於：理学部3号館会議室(18:30~20:30)、参加者延べ226名。記録集作成予定。
5月16日(水)「移動研究とジェンダー研究をつなぐ——両者の接点を求めて」
5月23日(水)「ゲスト・ワーカーから超国境的移動者へ——1989年を分岐点として」
6月6日(水)「ヨーロッパ経済への『他者化された』女性の編入——衣服産業、家事代行業、性産業」
6月13日(水)「女性移動者の抵抗戦略——サン・パピエ、自営業、通勤としての移動」
6月20日(水)「強制移動と移り変わるアイデンティティ——ユーゴスラヴィアのバイナショナル・カップルをめぐって」
- ②平成13年9月22日(土)公開講演会
「ポスト・コミュニズム時代のヨーロッパにおける人の移動とジェンダー」於：理学部3号館701室、参加者31名。
基調報告：ミリヤナ・モロクワシチ教授
ディスカッサント：姫岡とし子(立命館大学教授)
伊藤 るり(ジェンダー研究センター教授)
司会：館 かのる(ジェンダー研究センター教授)
- ③ミリヤナ・モロクワシチ=ミュラー教授が『ジェンダー研究』第5号に“Post-Communist Migrations in Europe and

Gender”を執筆。

「アジア・太平洋地域におけるジェンダー」の研究

〔研究担当〕

ヴェラ・マッキー（ジェンダー研究センター外国人客員教授・カーティン工科大学教授）

館 かつお（ジェンダー研究センター教授）

熊谷 圭知（ジェンダー研究センター研究協力員・本学文教育学部助教授）

森本 恭代（ジェンダー研究センター研究機関研究員）

磯山久美子（本学人間文化研究科博士後期課程）

〔研究内容〕

①ヴェラ・マッキー教授が、平成13年11月7日（水）～12月11日（水）まで5回にわたって「アジア太平洋におけるジェンダーとグローバル化」の夜間セミナーを行なった。於：理学部3号館会議室（18：30～20：30）。参加者延べ224名。記録集作成予定。

11月7日（水）「ジェンダーとグローバル化を考える」

11月14日（水）「グローバル化と身体」

11月28日（水）「グローバル化と表象」

12月5日（水）「グローバル化とセクシュアル・アイデンティティ」

12月11日（水）「グローバル化とトランスナショナル・フェミニズム」

②平成14年3月2日（土）公開シンポジウム

「トランスナショナル・フェミニズムの可能性」

（重点研究経費プロジェクトと共催）

於：文教育学部1号館大会議室、参加者54名。

基調報告：ヴェラ・マッキー教授

報告：土佐 弘之（東北大学助教授）、

金 富子（本学人間文化研究科博士課程）

ディスカッサント：

竹村 和子（本学人間文化研究科助教授）

司会：館 かつお（ジェンダー研究センター教授）

③ヴェラ・マッキー教授が『ジェンダー研究』第6号に“Faces of Feminism in Transnational Media Space”を執筆。

「東アジアにおけるジェンダー」の研究

〔研究担当〕

タニ・バーロウ（平成12年度ジェンダー研究センター外国人

客員教授・ワシントン大学教授）

伊藤 るり（ジェンダー研究センター教授）

竹村 和子（ジェンダー研究センター研究協力員、本学人間文化研究科助教授）

周 一川（ジェンダー研究センター研究協力員）

徐 阿貴（本学人間文化研究科博士後期課程）

〔研究内容〕

①タニ・バーロウ教授の夜間セミナー・国際シンポジウム・講演の記録集『国際フェミニズムと中国（シリーズ「国際ジェンダー研究」第1巻）』御茶の水書房の刊行（2003年3月）に向け編集作業を行なった。

②タニ・バーロウ教授が『ジェンダー研究』第5号に“Asia, Gender and Scholarship Under Processes of Regionalization”を執筆。

「〈開発とジェンダー〉教育プログラム」に関する研究

〔研究担当〕

タンダム・トゥルン（平成8年度ジェンダー研究センター外国人客員教授・オランダ国立社会科学研究所教授）

伊藤 るり（ジェンダー研究センター教授）

大沢 真理（ジェンダー研究センター研究協力員・東京大学社会科学研究所教授）

村松 安子（ジェンダー研究センター研究協力員・東京女子大学教授）

田中由美子（ジェンダー研究センター研究協力員・JICA国際協力総合研修所国際協力専門員）

森本 恭代（ジェンダー研究センター研究機関研究員）

〔研究内容〕

国際シンポジウム「アジアの女性と開発」（1996年12月18日）とタンダム・トゥルン（平成8年度外国人客員教授）の夜間セミナーをもとに記録集作成に向け、編集作業を行なった。

「法学とジェンダー」

〔研究担当〕

フランセス・オルセン（平成9年度ジェンダー研究センター外国人客員教授・UCLA ロースクール教授）

寺尾 美子（東京大学法学部教授）＜監訳・解説＞

館 かつお（ジェンダー研究センター教授）

木村くに子（ジェンダー研究センター研究協力員・東京农业大学非常勤講師）

〔研究内容〕

フランセス・オルセン（平成9年度ジェンダー研究センター外国人客員教授）の夜間セミナー・公開講演会記録等を中心にした単行本『法の性別（仮題）』刊行に向けた研究を行った。

3) センター個人研究

「視覚文化／身体／ジェンダー」

〔研究担当〕

長妻由里子（ジェンダー研究センター研究機関研究員）

〔研究内容〕

『ジェンダー研究』に論文執筆に向け、写真による視覚表象の身体認識へ及ぼす影響、時代のイデオロギーとジェンダーとの関わりについて研究を行った。

「女性と選挙に関する研究」

〔研究担当〕

大海 篤子（ジェンダー研究センター研究協力員）

〔研究内容〕

アメリカ合衆国の女性と選挙研究との比較研究を視野に入れながら、近年の日本における「選挙と女性たちの動向」に関する調査研究を行った。

- ・2000年6月の衆議院選と2001年7月の参議院選挙および地方首長選挙の調査分析
- ・「女性と選挙」に関するプレリサーチ実施
- ・アメリカ政治学会の女性研究者と研究交流会実施

4) 国内提携研究

「ジェンダー規範とその作用形態」に関する研究

〔研究担当〕

たばこ総合研究センターとの〈国内共同研究プロジェクト〉として推進。

「女性とたばこ」研究会メンバー

松浦 いね（ジェンダー研究センター研究協力員・元たばこ総合研究センター研究員）

館 かおる（ジェンダー研究センター教授）

堀 千鶴子（ジェンダー研究センター研究協力員・城西国際大学専任講師）

山崎 明子（千葉大学大学院博士課程）

中村 文（放送大学非常勤講師）

藤田 和美（本学人間文化研究科博士後期課程）

磯山久美子（本学人間文化研究科博士後期課程）

〔研究内容〕

- ・「女性とたばこ」研究会を開催。
- ・たばこ総合研究センター／お茶の水女子大学ジェンダー研究センター編『女性とたばこの文化誌』（仮）の刊行に向けた研究を行った。

5) 学内共同研究プロジェクト

「重点研究経費」による〈学内共同研究プロジェクト〉として、「グローバル化とジェンダー規範に関する研究」を行った。

〔研究担当〕

<代表者>

波平恵美子（ジェンダー研究センターセンター長・本学文教育学部教授）

<研究分担者>

青木紀久代（本学人間文化研究科助教授）

天野 正子（ジェンダー研究センター研究協力員・本学人間文化研究科教授）

石塚 道子（ジェンダー研究センター研究協力員・本学文教育学部教授）

伊藤 るり（ジェンダー研究センター教授）

戒能 民江（ジェンダー研究センター研究協力員・本学生活科学部教授）

竹村 和子（ジェンダー研究センター研究協力員・本学人間文化研究科助教授）

館 かおる（ジェンダー研究センター教授）

増永 良文（本学理学部教授）

御船美智子（本学生活科学部教授）

宮尾 正樹（本学文教育学部教授）

森本 恭代（ジェンダー研究センター研究機関研究員）

小山 直子（ジェンダー研究センター研究支援推進員）

<研究会報告>

ミリヤナ・モロクワシチ＝ミュラー（ジェンダー研究センター外国人客員教授）

ヴェラ・マッキー（ジェンダー研究センター外国人客員教授）

竹中 千春（ジェンダー研究センター客員教授・明治学院大学教授）

〔研究内容〕

- ・「グローバル化とジェンダー規範」研究会開催。

- ・平成13年6月23日(土) ワークショップ開催。
- ・平成14年3月2日(土) 公開シンポジウム
(ジェンダー研究センター・「グローバル化とジェンダー規範」研究会共催)
「トランスナショナル・フェミニズムの可能性」

於：文教育学部1号館大会議室、参加者54名

基調報告：ヴェラ・マッキー教授

報告：土佐 弘之(東北大学助教授)

金 富子(本学人間文化研究科博士課程)

ディスカッサント：

竹村 和子(本学人間文化研究科助教授)

司会：館 かおる(ジェンダー研究センター教授)

- ・お茶の水女子大学「グローバル化とジェンダー規範」研究会編『「グローバル化とジェンダー規範」に関する研究報告書』刊行(2002年3月)。

2. 研究交流・成果公表活動

1) 研究会・講演会・シンポジウム

平成13年4月より平成14年3月の間の発表者及びその題目は次の通りである。

9月22日(土) 公開講演会

ミリヤナ・モロクワシチ=ミュラー(ジェンダー研究センター外国人客員教授・フランス国立科学研究センター上級研究員兼パリ第10大学教授)

「ポスト・コミュニズム時代のヨーロッパにおける人の移動とジェンダー」(「現代ヨーロッパにおける移動とジェンダー」の研究②参照)

10月3日(土) 公開セミナー

「変容するアジアの家族」“Reform of the Family in Asia”(「アジアから考える研究会」との共催)

於：附属図書館第2会議室、参加者約20名

演者：パトリシア・ウベロイ(Patricia Uberoi)(デリー大学経済開発研究所教授)

ブリッジ・タンカ(Brij Tankha)(デリー大学中国・日本研究学部教授)

コメンテーター：三浦 徹(本学文教育学部教授)

司会：宮尾 正樹(本学文教育学部教授)

通訳：竹中 千春(明治学院大学教授、ジェンダー研究センター国内客員教授)

11月1日(木) 公開講演会

マージョリー・ムビリーニ(Marjorie Mbilinyi)(タンザニア、ダル・エス・サラーム大学教授)

「構造調整とグローバル化のものとジェンダー・ダイナミクス——南部アフリカの状況から」

“Gender Dynamics in the Context of Structural Adjustment and Globalization: The Case of Southern African Region”(「国際移動とジェンダー」に関する研究③参照)

(「グローバル化とジェンダー規範」研究会との共催)

11月21日(水) 公開研究会

「ジェンダーと人口移動——グローバリゼーションの中で」“Problem of Gender in the Age of Globalization”

(「グローバル化とジェンダー規範」研究会主催に事務局として協力)

於：附属図書館第二会議室、参加者25名

演者：黄 平(Huang Ping)(中国社会科学院社会学研究所副所長)

平成14年

3月2日(土) 公開シンポジウム

ヴェラ・マッキー(ジェンダー研究センター外国人客員教授・カーティン工科大学教授)

「トランスナショナル・フェミニズムの可能性」(「アジア・太平洋地域におけるジェンダー」の研究②参照)

2) 研究委員会

5月15日(火) 鈴木伸枝(お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員)「『悪女』礼賛——『フィリピン人花嫁』にみる『西洋の目』と主体性償還実践の限界と可能性」

10月15日(月) 竹中千春(明治学院大学教授、ジェンダー研究センター国内客員教授)「女性と民主主義——インドにおける女性のエンパワーメント」

平成14年

3月11日(月) 各メンバーによる平成13年度研究成果報告会

3) セミナー・ワークショップ

5月16日(水)～6月20日(水) 夜間セミナー(計5回) ミ

リヤナ・モロクワシチ=ミユラー「現代ヨーロッパにおける移動とジェンダー」(「現代ヨーロッパにおける移動とジェンダーの研究①参照」)

11月7日(水)~12月11日(水) 夜間セミナー(計5回)
ヴェラ・マッキー「アジア太平洋におけるジェンダーとグローバル化」(「アジア・太平洋地域におけるジェンダー」の研究①参照)

4) 刊行物

- ①お茶の水女子大学ジェンダー研究センター編・刊『ジェンダー研究——お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報』第5号刊行(平成14年3月)
- ②お茶の水女子大学「グローバル化とジェンダー規範」研究会編『「グローバル化とジェンダー規範」に関する研究報告書』刊行(平成14年3月)に事務局として協力。

3. 研究指導・教育活動

1) 研究生

加美 芳子「日本における男女平等教育の研究」
(平成13年4月1日~平成14年3月31日)
小田 知里「発展途上国における児童労働と教育の意義と役割、および保育・保育所の在り方と機能について」
(平成13年4月1日~平成14年3月31日)

2) 学部出講・大学院担当

館 かおる
コア科目(総合コース):女性問題(前期)
文教育学部:社会教育特講Ⅰ(前期)
生活科学部:ジェンダー論(後期)
人間文化研究科博士前期課程 発達社会科学専攻
開発・ジェンダー論コース:
ジェンダー関係論(前期)
ジェンダー関係論演習(後期)
開発ジェンダー論特論(前期)
人間文化研究科博士後期課程 人間発達学専攻
ジェンダー論講座:
ジェンダー史論演習(1)・(2)

伊藤 るり
コア科目(総合コース):女性問題(前期)
生活科学部:比較ジェンダー論(比較女性論)(前期)
人間文化研究科博士前期課程 発達社会科学専攻
開発・ジェンダー論コース:

比較ジェンダー開発論(前期)
比較ジェンダー開発論演習(後期)
開発ジェンダー論特論(前期)

人間文化研究科博士後期課程 人間発達学専攻
ジェンダー論講座:
国際女性開発論演習(1)・(2)

4. 社会的貢献

ジェンダー研究センター

- ・平成13年10月23日(火) カタール国首長妃訪日団視察に際し、受け入れに協力。ジェンダー研究センターについて講義。
- ・その他視察受け入れ、日本の男女共同参画等現状について解説(諸外国・国内の女性関係行政部門、民間団体(NGOの女性問題担当者等)、研究者等対象)

館 かおる

<講師>

- ①6月1日(金) 成蹊大学アジア太平洋研究センター
20周年記念フォーラム「21世紀のアジアと女性」
分科会「家族」基調報告
- ②6月27日(水) 愛知県地区新任係長研修 於:名古屋大学 講義「男女共同参画とジェンダー」
- ③7月9日(月) 兵庫県立女性センター
女性のためのエンパワメント講座
講義「男女共同参画社会基本法とジェンダー」
- ④7月25日(水)~26日(木)
国立女性教育会館 教師のための男女平等セミナー
- ⑤8月3日(金) 船橋市総合教育センター 教育講演会
講演「男女共生社会を目指す学校教育」
- ⑥11月19日(月) 国際協力事業団 男女共同参画推進セミナー 講義:「日本の女性の現状」 於:国際協力総合研修所

<委員>

- ・国立女性教育会館「高等教育機関における女性学関連科目等の調査研究」企画委員会座長(平成13年度)
- ・湯河原町男女共同参画懇話会会長「ゆがわら男女共同参画プラン」推進状況への助言(平成12年秋~平成13年)
- ・農林水産省専門技術員資格試験審査委員(平成13年6月1日~平成15年3月31日)
- ・法務省平成13年度人権啓発資料審査会審査員
- ・北京日本学研究中心 修士課程第15回学位審査審査員

伊藤 るり

<講師>

- ① 6月1日(金) 成蹊大学アジア太平洋研究センター20周年記念フォーラム「21世紀のアジアと女性」 於:成蹊大学
基調講演:「グローバル化・開発・ジェンダー」
- ② 6月2日(土) 同フォーラム国際シンポジウム パネリスト
- ③ 6月28日(木)～7月12日(木) アジア工科大学(タイ) 客員教授 “Culture, knowledge and gender relations” の講義
- ④ 10月26日(金) ワシントン大学地理学科コロキウム報告: “Transnational Social Spaces of Filipino Women in Japan”
- ⑤ 11月7日(水) 国際協力事業団平成13年度第2回技術協力専門家養成研修 於:国際協力総合研修所
講義:「開発・国際協力と社会・ジェンダー」

<委員>

- ・国立女性教育会館研究紀要 紀要協力委員 (平成7年度～)
- ・国際協力事業団「イシュー別支援委員会 (開発とジェンダー)」委員 (社会学) (平成13年度)
- ・かながわ国際政策推進懇話会委員 ジェンダーの視点を紹介 (平成12年度～)

ミリヤナ・モロクワシチ=ミュラー

<講師>

- ① 7月6日(金) 熊本学園大学附属海外事情研究所
第65回研究会
講演: “Post-Communism Migration in Europe and Gender”
- ② 9月4日(火) 大阪大学大学院公共政策研究科研究会
講演: 「アジア、ヨーロッパにおける人の移動と女性政策」
- ③ 9月13日(木) 北海道大学スラブ研究センター
講演: “Mixed Couples in the Context of Population Unmixing: the Case of Yugoslavia”
- ④ 9月14日(金) 札幌自由学校「遊」
講演: “Yugoslavia: from the Project for National Unity to the Failure of the State Model”
- ⑤ 9月26日(水) 東京大学大学院総合文化研究科研究会
講演: “Mixed Couples in the Context of Population Unmixing: the Case of Yugoslavia”

ヴェラ・マッキー

<講師>

- ① 11月23日(金) 国際連合地域開発センター第2回地域開発専門分野研修コース「人間の安全保障と地域開発」
講演: “Cultural Insecurity: Impacts on Women, Experiences from Southeast Asia”
- ② 平成14年1月10日(木) 愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所 定例研究会
講演: 「フェミニズムと多文化コミュニケーション」
- ③ 1月24日(木) 東京外国語大学留学生日本語教育センター 特別講座 講演: 「女性学入門」

5. 文献・資料収集/情報提供/閲覧活動

1) 収集資料点数

平成13年4月から平成14年3月までに収集した資料は和漢書単行本 223冊 (内重点研究経費分150冊)、洋書単行本141冊 (内重点研究経費分97冊)、その他雑誌、パンフレットなど多数。

2) 主要収集資料

国際移動とジェンダーに関する文献・資料/ジェンダーとセクシュアリティに関する文献・資料/開発とジェンダー教育に関する文献・資料/女性と自然科学者に関する文献・資料/リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する文献・資料/アジアの女性政策と開発に関する文献・資料/女性とたばこをめぐる関係資料/韓国の女子中等教育に関する資料/韓国の女性政策に関する資料/「グローバル化とジェンダー規範」に関する研究資料など

3) 資料提供

- 週刊朝日百科『世界の文学』第119号「アフリカの文学」(2001年10月23日発行)に、図版として以下の書籍を貸出。
Emecheta, Buchi, *The Joys of Motherhood*, George Braziller, 1980
- ABC朝日放送『世界痛快伝説!! 運命のダダダダーン!!』(2001年10月26日放映)のために明治12年の大学正門の写真を提供。
- 学習研究社『6年の学習』3月号歴史特集「制服・ユニフォームの歴史」制作のために明治10年東京女子師範学校生徒の写真と明治19年高等師範学校女子部生徒の写真、各一葉を提供。
- 東北大学史料館企画展「東北帝国大学と女子学生」(平成14年3月1日～5月2日)の展示資料として黒田チカの写真二葉を提供。

4) リファレンスサービス資料及び情報の提供・閲覧・貸出・常設展示

- コピーサービス：常時附属図書館情報サービス・情報システム係で担当
- ホームページ（和文・英文）の更新実施
- 図書以外に関する情報提供
- ニュースレター「IGS 通信」発行

5) 図書・資料寄贈（敬称略）

掲載は、和書：寄贈者名『書名』（著者名）、洋書：寄贈者名書名（イタリック）（著者名）の順とした。

大口勇次郎『女の社会史17-20世紀——「家」とジェンダーを考える』（大口勇次郎編），不二出版『性と生殖の人権問題資料集成』第3巻・第4巻・第5巻（不二出版），小川信子・田中厚子『ビッグ・リトル・ノブ』（小川信子・田中厚子），鈴鹿工業高等専門学校『鈴鹿工業高等専門学校20年史』（鈴鹿工業高等専門学校20年史刊行委員会），高等女学校研究会『静岡県立吉原高等学校創立75周年記念誌 嶺朋』（静岡県立吉原高等学校記念誌編集委員会），京華女子高等学校みやこの会『みやこの会報第3号』（伊東キクエ・広池富子・次田万貴），清津高女同窓会すゞらん本部『すゞらん第44号』（清津公立高等女学校同窓会），長崎県女子師範学校第33期生『なぎさ7号古希記念誌』（長崎県女子師範学校33期生），近代女性文化史研究会『戦争と女性雑誌 1931年～1945年』（近代女性文化史研究会），原ひろ子 *Hexen: Katalog zur Ausstellung* (Thomas Hauschild et.al), *N'TSUK* (Yves Thériault), 三省堂編集部『ジェンダーで読み解く江戸時代』（桜井由幾・菅野則子・長野ひろ子），黄育馥『中国妇女统计资料1949-1989』（中华全国妇女联合会妇女研究所・陕西省妇女联合会研究室編），鳥根県立大学『21世紀の北東アジアと世界』（増田祐司編），黄育馥『上海中外婦女問題研討會論文集』（上海市婦女聯合會），金在仁『한국 여성교육의 변천과정 연구』（김채인 et.al.），『방과 후 아동보육 실태분석과 종합대책수립을 위한 연구』（김채인 et.al.），大阪府立和泉高等学校『和泉高校百年誌』（大阪府立和泉高等学校），『和泉高校 目でみる百年』（大阪府立和泉高等学校），Mirjana Morokvasic *Cities & diversities: Immigration in Europe* (Brahim Chanchabi), Anne Walthall *The Weak Body of a Useless Woman* (Anne Walthall), 阿木津英・内野光子・小林とし子『扉を開く女たち』（阿木津英・内野光子・小林とし子），阿木津英『折口信夫の女歌論』（阿木津英），東京

女子大学女性学研究所『結婚の比較文化』（東京女子大学女性学研究所・小檜山ルイ・北條文緒編），青山温子・原ひろ子・喜多悦子『開発と健康——ジェンダーの視点から』（青山温子・原ひろ子・喜多悦子），イトー・タリ『ドキュメント 越境する女たち21展』（ウィメンズアートネットワーク実行委員会），英宝社『ことばとジェンダー』（A.ゴッタード；L. M. パターソン），生活文化研究会『江戸時代女性生活絵図大事典』6・7・8・9・別巻（江森一郎監修），館かおる『日本社会とジェンダー』（三宅義子編），真橋美智子『「子育て」の教育論』（真橋美智子），日本女子大学『日本女子大学学園事典』（日本女子大学），『年表 日本女子大学の100年』（日本女子大学），清津公立高等女学校同窓会『すゞらん第45号』（清津公立高等女学校同窓会），不二出版『性と生殖の人権問題資料集成』第6巻・第7巻・第8巻（不二出版），マラヴィカ・カールレーカル *Sites of Change* (N. Rao; L. Rurup; R. Sudarshan (eds.)), 橋本紀子『仕事と家族と幸福感』（エリナ・ハーヴィオ＝マンニラ），池内ひろ美『「いい夫婦」になるいたってシンプルな30のヒント』（池内ひろ美），原ひろ子『多文化を生きる』（原ひろ子編），栃木県立美術館『モードと風刺』（栃木県立美術館），『揺れる女／揺らぐイメージ』（栃木県立美術館），『奔る女たち』（小勝禮子；橋本慎司；鈴木かおる編），Leiblicher Logos (身体のロゴス) (ifa: ドイツ対外文化交流研究所)，タンダム・トゥルン *Vietnam* (Beckman; Hansson; Roman (eds.)), 笠井ツユ子『荒波を越えて』（笠井ツユ子），山田裕美『大阪女性史年表 大正編』（大阪女性史研究会），『山岡邦三郎文書目録 山岡春関係文書目録補遺』（山岡家文書刊行・保存会），幼児期からの男女平等教育研究会『諸外国の乳幼児期からの男女平等についての教育施策に関する調査研究報告書』（幼児期からの男女平等教育研究会），国際日本文化研究センター *Dodonæus in Japan* (W. F. Vande Walle (ed.)), *Beijing Declaration and Platform for Action with the Beijing+5 Political Declaration and Outcome Document* (United Nations)

6) 来館・閲覧者（抄）（敬称略、表記は記名による）

平成13年4月9日 斎藤久枝 (International Human Rights Committee), 4月12日 小田知里 (ジェンダー研究センター研究生), 4月18日 志村明子 (中央大学社会学部教授), 4月19日・27日 木下裕美子 (東京工業大学), 5月14日 平河勇 (順応学園熊本フェリス学院高校常務理事), タンダム・トゥルン (蘭・Institute of Social Studies), 5月28日・29日・31日 太田育子 (広島市立大学国際学部助教)

授), 植村友香子 (University of Helsinki), 5月29日 Joyce Gelb (The City University of New York), 6月1日 植村友香子 (University of Helsinki), 6月5日 木下裕美子 (東京工業大学), 秋川久美子 (日本女子大学), 6月15日 原田智子 (法政大学大学院), 6月29日 板場純子 (津田塾大学大学院), 7月6日 高木明日香 (日本大学大学院文学研究科), 7月11日 本村夏彦 (財団法人リモート・センシング技術センター参事), 7月12日 木下裕美子 (東京工業大学), 7月16日 金善民 (淑明女子大学校日本学科助教授), 7月25日 多賀太 (久留米大学助教授), 7月27日 山根智恵 (山陽学園短期大学講師), 7月30日 シンシア・ワージントン (熊本県立大学元教員), 8月3日 日下部京子 (アジア工科大学), 8月24日 東野英昭 (株式会社レックス・インターナショナル), Tajkera Khair (RECS International INC.), 9月7日 高木明日香 (日本大学大学院), 9月17日 志村明子 (中京大学教授), 9月21日 阿部裕美 (山形短期大学), 9月25日 小林陽子 (日本女子大学), 10月3日 Patricia Uberoi (Deli University), Brij Tankha (Deli University), 10月16日 武藤八重子 (くらしき作陽大学), 10月19日 高木, 中野 (鳥取県河原中学校), 鍋島健祐 (名城大学), 10月24日 那須由紀子 (成蹊大学), 10月31日 Anne Sokolski (早稲田大学), 小林富久子 (早稲田大学), 11月1日 Marjorie Mbilinyi (Univ. of Dar es Salaam), 11月16日 小林富久子 (早稲田大学商学部), 11月21日 黄平 (中国社会科学院社会学研究所副所長), 他1名, 11月22日 Pam Rajput (Director, Centre for Women's Studies & Development, Panjab University), 上原麻子 (広島大学大学院国際協力研究科教授), 11月26日 鳴海朋 (筑波大学第三学群国際総合学類), 12月10日 Okamoto Wendy (University of Queensland), 12月11日 國保良江 (東京新聞論説委員), 12月14日 鈴木洋子 (埼玉大学), 12月17日 新保直美 (筑波大学第一学群人文学類), 平成14年1月7日・8日・10日 Phoebe Stella Holdgrün (ゲッティンゲン大学), 1月8日 根ヶ山多嘉子, 絹川知美 (プリン・マー大学), 1月15日・17日・18日・21~24日 Phoebe Stella Holdgrün (ゲッティンゲン大学), 1月18日 喜連川優 (東京大学生産技術研究所教授), 1月24日 Karen Krogh Fano (University of Copenhagen), 1月28日・31日 Okamoto Wendy (University of Queensland), 1月29日 ゴツイック・マーレン (ボン大学日本文化研究所), 佐藤案 (お茶の水女子大学附属中学校), 1月29日~31日 Phoebe Stella Holdgrün (ゲッティンゲン大学), 2月1日 Andrea Germer (ドイツ日本研究

所研究員), 2月1日・7日・8日・12日 Phoebe Stella Holdgrün (ゲッティンゲン大学), 2月13日 松前もゆる (東京大学大学院), 2月19日 Deborah Solomon (日本研究センター), 2月19日・20日 Phoebe Stella Holdgrün (ゲッティンゲン大学), 2月22日 永田英明 (東北大学史料館), 2月28日・3月5日 Phoebe Stella Holdgrün (ゲッティンゲン大学), 3月6日 李恩姬 (学芸大学大学院), 3月15日 本山央子 (立教大学), 3月13日・18日・26日 Phoebe Stella Holdgrün (ゲッティンゲン大学)